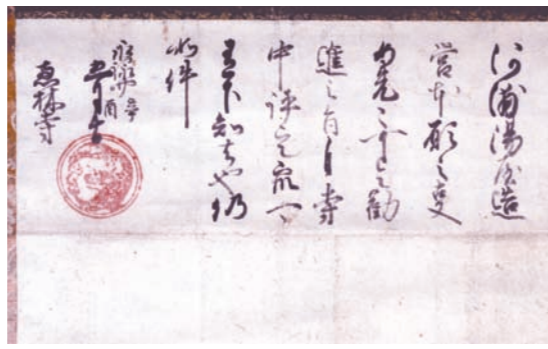


温泉 ～信玄の隠し湯～

県内の温泉には、「信玄の隠し湯」と伝えられるものが少なくない。武田信玄が負傷した将兵の治療に利用したものと。上田原合戦や塩尻峠合戦から戻った信玄が「嶋(志磨)の湯」(甲府市・湯村温泉)で湯治したことは「甲陽軍鑑」にも記述されている。

川浦温泉(山梨市)は、恵林寺(甲州市)の寺領であったと言われている。人々からの勧進により、湯屋を造りたいと申し出た恵林寺に対し、信玄はこれを認める朱印状を与えている(恵林寺文書)。富士川流域を領有した穴山信友(信玄の妹婿)も、奈良田温泉(早川町)で湯治しており(深沢家文書)、その子信君は、破損した下部温泉(身延町)の湯屋の再興を命じた(恩地家文書)。これらが戦国時代から著名な温泉地・

湯治場であったことは間違いない。信玄像が巨大化するなかで、信玄に結びつける伝承が生まれ、次第に拡大し、「信玄の隠し湯」として今に至っているのだらう。ちなみに、下部温泉は日蓮の書状にも湯治場として登場する。また向嶽寺(甲州市)の開山、拔隊得勝も当地で漢詩を作っているが、日蓮や拔隊の隠し湯とは呼ばれない。高僧たちも、知名度では信玄にはるかに及ばない。



湯屋の造営に関する勧進を認めた武田信玄の朱印状(恵林寺文書・恵林寺蔵)

信玄像 ～人々の心に生き続ける～

甲府駅前
の信玄像。諏訪法性の兜をいただき、右手に軍配を持つ。江戸時代に描かれた浮世絵から抜け出してきた姿だ。名札をつけずとも信玄とわかる。

武田二十四将。こちらも江戸時代に絵画化されることで広まった。時により、信玄を含め二十四人、信玄以外に二十四人。当然、描かれる武将にも出入りがある。川中島で戦死した山本勘助と長篠で死んだ三枝守友、生き残った年代の違う両者が、信玄・勝頼の前に居並んでいる。

紙本著色 武田二十四将図(山梨県立博物館蔵)



武田信玄信州川中島出張之図(山梨県立博物館蔵)

甲州文化再見

最終回 山 不動如山 変わらぬもの

“FŪ” “RIN” “KA” “ZAN”

いよいよ始まるNHK大河ドラマ「風林火山」の放映は、山梨の魅力在全国に発信し、本県のイメージをさらに高める絶好の機会です。県では、大河ドラマの放映にあわせ、官民協働の集客イベント「甲斐の国 風林火山博」の開催などさまざまな取り組みを行っていきます。この機会に皆さんも郷土山梨をもう一度見つめ直してみませんか。英雄・武田信玄の時代の文化を「風」「林」「火」「山」の四回シリーズで紹介しています。

最終回(第四回目)のテーマは「山」。
武田家繁栄の時代から現在に受け継がれているもの、またそれ以前の時代から今まで何も変わらないものなどが数多く残されています。最終回となる今回は、本県の財産とも言える先人の世から変わらず受け継がれているものを紹介します。

富士山 ～信仰の対象～



朝焼けの富士山

「フジヤマは日本の霊山で、各地から巡礼者が訪れる」。幕末の日本を旅したドイツの考古学者シュリーマンは、その旅行記にこう書いている。前近代にあつては、一貫して富士山は信仰の山であつた。永正三年(一五〇六)四月、信玄の祖父信繩は、「富士浅間大菩薩」に願文を捧げ、病気の平癒を祈願した(北口本宮富士浅間神社文書)。平癒の暁には、来る六月中に参詣したいと述べている。その子信虎(信玄の父)は、大永二年(一五二二)に富士山へ参詣し、「八葉」したという(「勝山記」)。八葉とは、蓮弁に見立てられた富士山頂上の八つの高所のこと、字義どおりには解釈すれば、頂上に達し「お鉢巡り」を果たしたことになる。ちょうど甲斐一国の統一がなつた頃であり、自身の健康や家の繁栄、さらにはその力を誇示するための登山であつたとみられる。信玄については、北条氏政に嫁いだ息女の安産を祈り、二度にわたって「富士浅間大菩薩」に願文を捧げたことが知られている(富士御室浅間神社文書)。武田家にとつても富士山は、信仰の対象であつた。